

# 第15回年会報告

## 第15回年会報告

日本ケミカルバイオロジー学会第15回年会は、2021年6月21日から23日の3日間、オンラインにて開催されました。オンラインの開催となりましたが、355名の方々にご参加いただき、通常の年会と同様に、素晴らしい発表と活発な討論が行われました。参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。

第15回年会は、当初2020年6月に開催予定でしたが、2020年1月に中国武漢から始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大が、我が国でも重大な懸案事態となり同年4月に1年の延期を決めさせていただきました。急な変更をご了解いただきました、長田裕之会長、友廣岳則第16回年会実行委員長に感謝申し上げます。COVID-19の感染拡大は2020年末にも収束せず、第15回年会はオンライン開催することになりました。当初予定の開催でしたらご参加いただけたはずの故上村大輔先生は残念ながら4月にご逝去されました。改めて哀悼の意を表します。

年會を企画するにあたり、九州で初めてのケミカルバイオロジー学会の開催ということで、できるだけ多くの九州の関連研究者が参集できるようにすることを考えました。加えて、ケミストリーに親和性の高いバイオロジー研究と、ケミカルバイオロジーの革新をもたらす可能性のあるAI研究テーマを招待講演とし、それらを中心に一般講演を編成したセッションを企画することにしました。外国人講演者の招へいは、組織委員からの強い推薦がなかったため、第15回年会では行わないことになりました。1年延期後は現地開催あるいはオンライン開催のどちらかでも必ず開催することを第一と考え、基本企画は変更しない方針で臨みました。オンライン開催を決定しましたが、講演に関しては問題なく進行できるものの、ポスター発表には運営の工夫が必要と考えられました。そこで、年会開始前にポスター説明をオンデマンドで参加者限定サイト公開し、グラフィカルアブストラクトにリンクし、Google Meetでのディスカッションに繋がるようにしました。Google Meetでは入室前にすでに議論している参加者数が分からないのが、若干の不安点でしたが、実際にはポスター討論は活発に行われていました。開催前には、参加者の皆さんにも不安感を与えてしまいましたが、特別講演1、招待講演4、口頭発表37題、ポスター86題の研究発表が滞りなく行われ、3日間を通じてインパクトのある発表と活発な議論が交わされました。

### <特別講演>

佐々木 裕之 先生（九州大学生体防御医学研究所）  
「エピゲノム研究の現状と医学生物学への応用」

### <招待講演>

西田 基宏 先生（九州大学大学院薬学研究院）  
「活性イオウによる心筋ミトコンドリアの頑健性制御」  
山崎 晶 先生（大阪大学 微生物病研究所）  
「免疫受容体による病原体糖脂質の認識機構とその応用」  
奥野 恭史 先生（京都大学大学院医学研究科）  
「スーパーコンピュータ・AI によるデータ駆動型創薬の可能性」  
塩田 倫史 先生（熊本大学発生医学研究所）  
「神経生物学におけるDNA・RNA 高次構造の機能解明を目指して」

## 日本ケミカルバイオロジー学会 第15回年会 抄録集

会期：2021年6月21日(月)～6月23日(水)  
会場：オンライン開催

主催：日本ケミカルバイオロジー学会  
共催：日本化学会  
後援：日本化学連合  
日本生化学会  
日本蛋白質科学会  
日本農芸化学会  
日本分子生物学会  
日本分析化学会  
日本薬学会  
日本薬理学会

本年も英国王立化学会（RSC）のご厚意によりRSCポスター賞が設けられました。審査委員の先生方により、ポスター賞の厳正な審査が行われ、2件のRSCポスター賞、4件のポスター賞が授与されました。

**<RSC・Organic & Biomolecular Chemistry ポスター賞>（敬称略）**

・岩田 恭宗（京都大学化学研究所）

「液-液相分離による抗体の細胞内送達」

・鳥井 健司（大阪大学大学院工学研究科）

「フルギミドを用いた光スイッチング蛍光分子の開発」

**<ポスター賞>（敬称略）**

・林 謙吾（東北大学大学院理学研究科）

「コロナチン立体異性体ライブラリーを用いた植物ホルモン受容体サブタイプ選択的リガンドのスクリーニング」

・岩邊 巧（富山大学大学院医学薬学研究部）

「桂皮酸骨格を有する脂肪族ジアジリン光反応基の開発」

・荻原 洲介（東京大学大学院薬学系研究科）

「有機小分子蛍光プローブを用いた高感度S-adenosylmethionine (SAM) 検出系の開発と Pathway-Oriented Screening への応用」

・三浦 一輝（東京工業大学生命理工学院）

「細胞内タンパク質間相互作用解析のための光触媒近接タンパク質標識法の開発」

最後に、多くのご支援とご高配を賜りました、協賛企業や助成財団、学会関係者のみなさま、九州地区の大学のみなさまに、重ねて厚くお礼を申し上げます。